

教科專門科目

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こども学概論	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>人はみな「こども」として生きる時期を経て、大人になり、また新たな世代の「こども」と共に生きている。では、そんな私たちにとって身近な存在である「こども」を説明するには、どのような視点がふさわしいであろうか。この授業は「こども」をより多面的にとらえることによって、「こども」に対する理解を深めることを目標とする。様々な時代・社会・文化における「こども」の在り方や「こども」の捉えられ方に注目し、養育者や保育者の在り方についても考察を加える。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：設題の意図を理解し、重要事項を落とさずに私見を自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>科 目 試 験：カウンセリングやこどもの無気力について理解を深め、自分の言葉で説明ができる。</p>		
授業の概要		
<p>こども学は、近年注目を浴びながら発展する学問である。これまで、医学・心理学・教育学・社会学・文化人類学など様々な学問領域において、「こども」を対象とする研究がそれぞれ進められてきた。しかし、本来「こども」はひとりの人間としてひとつの時代を生きる存在であるため、総体として理解される必要がある。そこでこの授業では、こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域に由来する「こども」に関する知見を統合することによって、「こども」の実像により近づくことを目指す。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. こども学とは何か？ 2. こども観の歴史の変遷 3. 法律とこどもの権利 4. こどもの発達・成長 5. こどもの内なる世界、見る・感じる 6. こどもの障害・病理 7. 家族の在り方の多様化とこども 8. しつけと虐待 9. こどもの学びと教育 10. カウンセリングの基本 11. 医療・福祉領域におけるこどもへの取り組み 12. こどもを取り巻く環境としての現代社会 13. こどもとメディア 14. こどもをめぐる経済 15. さまざまな状況で生きる世界のこどもたち 		
テキスト		
<p>「こども学概論」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
児童家庭福祉	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>望ましい保育者となるために、現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体系について学びを深めていく。併せて、児童家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。</p> <p>科 目 試 験：レポートでまとめた内容の総括として、保育士として児童家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性について習得する。</p>		
授業の概要		
<p>望ましい保育者となるために、児童家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 児童家庭福祉の理念と概念 児童家庭福祉の歴史の変遷 現代社会と児童家庭福祉 児童家庭福祉と保育 <ul style="list-style-type: none"> 児童家庭福祉の一分野としての保育 児童の人権擁護と児童家庭福祉 児童家庭福祉の制度と法体系 児童家庭福祉行財政と実施機関 児童福祉施設等 児童家庭福祉の専門職・実施者 児童家庭福祉の現状と課題① <ul style="list-style-type: none"> 少子化と子育て支援サービス 母子保健と児童の健全育成 児童家庭福祉の現状と課題② <ul style="list-style-type: none"> 多様な保育ニーズへの対応 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス 児童家庭福祉の現状と課題③ <ul style="list-style-type: none"> 社会的養護 障害のある児童への対応 児童家庭福祉の現状と課題④ <ul style="list-style-type: none"> 少年非行等への対応 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク 諸外国の動向 		
テキスト		
「児童家庭福祉」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
参考書・参考資料等		
「新版 児童家庭福祉論」(保育者養成シリーズ) 林邦雄、谷田貝公昭監修 山崎順子、高玉和子、和田上貴昭編著 (一藝社) (ISBN: 9784863590946)		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単 位 数	学 習 形 態
社会福祉論	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について、学びを深めながら、現代の社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系等についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解していく。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会福祉と児童家庭福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</p> <p>科 目 試 験：レポート学習した内容の総括として、保育士として社会福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性について習得する。</p>		
授業の概要		
<p>望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史の変遷に触れ、その意義や制度体系について理解を深めるとともに、児童家庭福祉との関連についても学ぶ。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と概念 2. 社会福祉の歴史の変遷 3. 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉 4. 児童の人権擁護と社会福祉 5. 家庭支援と社会福祉 6. 社会福祉の制度と法体系 7. 社会福祉行財政と実施機関 8. 社会福祉施設等の概要と位置づけ 9. 社会福祉の専門職・実施者 10. 社会保障及び関連制度の概要 11. 社会福祉における相談援助 <ol style="list-style-type: none"> ① 相談援助の意義と原則 ② 相談援助の方法と技術 12. 社会福祉における情報提供と第三者評価及び利用者の権利擁護と苦情解決 13. 少子高齢化社会への対応 14. 在宅福祉・地域福祉の推進 15. 諸外国の動向 		
テキスト		
<p>「社会福祉論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(フレール館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレール館)</p>		
参考書・参考資料等		
<p>「社会福祉の基本と課題」井村圭壯、相澤譲治編著(勁草書房)(ISBN:9784326700851)</p>		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
相 談 援 助	1 単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷に触れながら、相談援助の方法と技術並びに相談援助の具体的展開について系統的に理解していく。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 相談援助の方法と技術について理解する。 3. 相談援助の具体的展開について理解する。 4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析による対象への理解を深める。</p>		
授業の概要		
<p>望ましい保育者となるために、ソーシャルワークに関する基本的な知識や技術、人間として身につけなければならない価値・倫理等について学ぶ。</p>		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の理論・意義・機能 2. 保育における相談援助の位置づけ 3. 相談援助の方法と技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の対象と支援過程 (2) 相談援助の技術・アプローチ 4. 相談援助における計画・記録・評価 5. 相談援助における関係機関と協働 6. 相談援助における多様な専門職との連携 7. 相談援助における社会資源の活用、調整、開発 8. 事例分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 虐待の防止と対応等の事例分析 (2) 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析 (3) ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析 		
テキスト		
「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
参考書・参考資料等		
「相談援助」(保育者養成シリーズ) 林邦雄、谷田貝公昭監修 高玉和子、和田上貴昭編 (一藝社) (ISBN : 9784863590359)		
学生に対する評価		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	50%	自律した学ぶ姿勢・行動がとれているかを基準とする。
課 題		
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	50%	演習で取り扱った内容を踏まえ、設定されたテーマについて深く論じることができているかを基準とする。
特 記 事 項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
保育相談支援	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
1. 保育相談支援の意義・原則・基本について理解する。 2. 保育相談支援（保護者支援）の内容・方法・実際について理解する。 《学習成果》 スクーリング：保育相談支援の知識と技術を演習で身につけるとともに、保育相談支援の実際について事例を通して理解できるようになる。		
授業の概要		
保育相談支援は演習科目である。保育原理・保育内容・相談支援・社会福祉論等々保育者として学んできた事を統合して使いこなす方法を学ぶ。 保育相談支援は保育の知識及び技術を使ってこどもの最善の利益を守るため行われる保護者支援である。保育の知識及び技術は何か、保護者の何を支援するのかを演習を通して学ぶ。		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
◆保育相談支援とは何かについて学ぶ 1. こどもの最善の利益を守るため、保育の知識及び技術・社会福祉の知識及び技術・保育所の特性を使って保護者を支援することを学ぶ〔キーワード：こどもの最善の利益〕 2. こどもの成長の喜びを共有する、保護者の養育力の向上を図る、親子関係の安定化を図る等を通し、親とこどもとの絆をつないでいくことを学ぶ〔キーワード：絆〕 ◆保育相談支援の知識と技術について学ぶ 3. 保育相談支援の技術は、保育の知識と技術を使って進めることを学ぶ <div style="text-align: right;">〔キーワード：保育の知識と技術〕</div> 4. 保育者が持つこどもの態度・知識・情緒や、基本的な生活習慣、5領域の力を育てるための知識・技術と保護者支援〔キーワード：保護者支援〕 5. 保育実践における保護者支援について演習〔キーワード：支援技術〕 例：連絡帳・園だより・保護者会・保育参加等々の保護者支援としての意義と役割 ◆保育相談支援の実際について学ぶ 6. 事例を通して保育相談支援の実際〔キーワード：保育相談支援の実際〕 7. 保育所で特別な対応を要する家庭への支援について、事例を通して学ぶ〔キーワード：特別な配慮〕 8. 入所児童福祉施設等での保育相談支援の実際について、事例を通して学ぶ <div style="text-align: right;">〔キーワード：児童福祉施設〕</div>		
テキスト		
「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
「保育相談支援」大嶋恭二、金子恵美編著（建帛社）2011年（ISBN：9784767932903）		
学生に対する評価		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	演習科目のため、積極的に参加し、自分の意見を発表できるかを基準とする。
課 題	20%	スクーリング中に出された課題の趣旨を理解して、まとめられているかを基準とする。
そ の 他	10%	話し合いの状況・ロールプレイへの参加状況を基準とする。
単 位 認 定 試 験	50%	演習で取り扱った内容について、自分なりに考え、また保育者としての専門性も大切にしながら考え論じる事ができているかを基準とする。
特 記 事 項	上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授業科目名	単位数	学習形態
こどもと音楽	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
こどもの音楽表現を豊かにし、こどもの成長過程に応じた発達を援助する。		
〈学習成果〉		
レポート：保育現場における音楽の役割を統括的に学び、音楽活動の指導に必要な基礎的理論を身につける。		
科目試験：こどもの音楽表現活動を援助するために必要な音楽の基礎知識を身につける。		
授業の概要		
日々の保育において、音楽を活かした遊びや活動を行うために必要な基礎知識を中心に学習し、こどもに音楽の楽しさを伝えられる技術力と実践力を養う。		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. こどものうたや伴奏法の習得に関する音楽理論の基本的知識を元にした学習の進め方と内容確認 2. 譜表・音名・記号について 3. 様々な音符や休符の種類と記譜について 4. 季節・行事・生活の曲を通して様々な拍子と拍子記号について 5. 保育の現場での身体運動や、遊びに使用出来る様々なリズム・リズムパターンや旋律等について 6. 音階と調の基本を学びこどもの声の高さに合わせられる簡単な移調法について 7. 伴奏法に役立つ音程と和音について 8. 速度・強弱・曲想と奏法に関する表示法について 9. こどものための音楽教育の目標を考える 10. 幼児教育・保育における音楽の大切な役割と効果、その影響について考える 11. こどものうた（わらべ唄、唱歌、童謡等）を調べ分類する 12. 場面、年齢に応じたうた遊びと手遊びについて 13. こどもの1日の活動や流れと音・音楽の関係を調べる 14. 幼児用楽器の使い方を学び、様々な音に触れる 15. 反省点や必要点を見出し、学習に補充する 		
テキスト		
「こどもと音楽」(配本テキスト)		
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)		
「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)		
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
参考書・参考資料等		
「こどものうた 簡易伴奏曲付き」 田中常雄監修 平島美穂、木村鈴代、小杉裕子編著 (圭文社) (ISBN : 9784874460764)		
「かんたんメソッド コードで弾きうたい」 細田淳子、笹井邦彦、西海聡子、悠木昭宏著 (カワイ出版) (ISBN : 9784760940387)		
「手あそび百科」植田光子編著 (ひかりのくに株式会社) (ISBN : 9784564603839)		
学生に対する評価		
学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用いる)		
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する		

授 業 科 目 名	単 位 数	学 習 形 態
こどもと造形 I	1 単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育の内容を踏まえた造形の基本的な知識の習得を目指し、手の動き・感性・造形的思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p>		
《学習成果》		
<p>レポ ー ト：乳幼児における造形教育の指導・援助者として必要となる基礎的知識及び技能についてテーマ毎に実技課題を設定し、形や色や質感等についての知識を理解するとともに、保育の教材となる材料や用具の取り扱いについて体験的に習得する。</p>		
<p>科 目 試 験：保育の内容を踏まえた造形教育における基礎的知識と、造形活動の際に取り扱う保育教材や道具・用具の使用方法、日本・西洋美術史の歴史的展開について習得する。</p>		
授業の概要		
<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとにした色彩分割及び構成学習を行う。また具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、こどもの造形あそびに関わる手法研究を行う。その他、日用品や廃材等を使用して、素材の質感に触れながら感受性を磨き、創意工夫をして材料を貼りつける製作を行う等、平面及び立体における造形教育を展開するために必要となる知識や技術について体験的に理解する。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児造形における発達過程の特徴及び指導・援助について 2. 形態の分割構成・色彩の配色構成の理論と実践 3. 絵画技法及び描法について（各種表現技法を用いた製作） 4. 立体造形における技法と活用（素材・廃材を使用した立体造形の製作） 5. 教材研究Ⅰ（えがく活動における製作） 6. 教材研究Ⅱ（つくる活動における製作） 7. 教材研究Ⅲ（造形あそびにおける製作） 8. 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ 		
テキスト		
<p>「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
<p>市販の造形に関する書籍等</p>		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p>		
<p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと造形Ⅱ	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について①えがく領域②つくる領域③造形あそびの領域を通して体験的に習得する。また、教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高める。</p>		
授業の概要		
<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。</p>		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点 2. 幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について 3. えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際） 4. つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際） 5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際） 6. 作品の研究及び発表 7. 幼児造形教育の課題について 8. まとめ 		
テキスト		
<p>「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
市販の造形に関する書籍等		
学生に対する評価		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	幼児造形教育の課題や製作について、意欲をもって取り組む姿勢であるかを基準とする。
課 題		
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児造形教育の基礎的知識及び造形活動における指導・援助方法について論じられているかどうかを基準とする。(30%) ・ 素材（日用品・廃材等）を活かした作品製作を通して技術力・創意工夫、教材研究及び発表内容（表現意欲）を基準とする。(50%)
特 記 事 項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと体育Ⅰ	1単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>こどもの運動遊びは、訓練的にならずこどもたちが能動的に取り組み、多くの体験ができるような環境を設定することが大切であることを理解し、こどもの発育発達に即した運動能力から、年齢や環境に応じた基本的な動きや運動遊びを身に付けるとともに、こどもたちが安全に遊ぶために遊具の安全性について認識を深める。</p>		
《学習成果》		
<p>レポ ー ト：運動遊びにおける援助者の役割について理解し、人的環境について説明するとともに、集団遊びと発育発達について事例をあげて自分の考えをもつことができる。</p>		
<p>科 目 試 験：こどもを取り巻く生活環境の変化は、様々な面から発育発達に大きく影響を及ぼしていることから戸外での運動遊びや心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し各種の問題に取り組むことができるようになる。</p>		
授業の概要		
<p>こどもの運動遊びの特徴や必要性を発育発達の面から理解しながら、図表や実践例から運動遊びのイメージを膨らませ、安全に楽しく遊びが展開できる知識を理論的に深める。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的背景を考慮しつつ、幼児の運動遊びの必要性について考え、その環境作りや言葉掛けについて 2. こどもの発育と運動遊びについて 3. 基本的な動き 歩・走・跳・投・押・引・転・登 4. 発育発達にあったグループ遊び 5. 発育発達にあった競争遊び 6. 操作性遊具や器具、身近な素材を使った運動遊び 7. 野外での幼児の遊び 8. 遊具の遊びと安全 		
テキスト		
<p>「こどもと体育Ⅰ」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
<p>特になし</p>		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p>		
<p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと体育Ⅱ	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>こどもの運動遊びは、異年齢で運動能力や理解度に差がある中で展開され、決まりやルールはこどもたちの能力にあったものを年長者が決めるなど、皆が楽しくなければならぬ。援助者は運動遊びを援助する際、訓練的にならず、こどもたちが能動的に取り組み、多くの体験ができるよう環境を設定するなど、こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢や環境に応じた知識・技術を身に付ける。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（野外でのグループ・集団遊び、固定遊具（鉄棒）遊び、大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び等）が考えられ援助でき、運動遊びの指導法や安全についての知識を習得する。</p>		
授業の概要		
<p>「こどもと体育Ⅰ」での学習をもとに運動遊びを考え発表・体験する。固定遊具、鬼ごっこ等について研究を深め、こども達が安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方、安全性について学ぶ。</p>		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然での幼児の遊び 2. 野外での幼児の遊び（グループ・集団） 3. 固定遊具・鉄棒での幼児の遊び（DVD） 4. 操作性遊具を使った遊び（ボール・縄・フープなど） 5. 大型遊具を使った遊び（マット・跳び箱・平均台など） 6. サーキット遊び 絵本の物語などを運動遊びに展開する 7. 鬼ごっこ遊び 8. 伝承遊び 		
テキスト		
<p>「こどもと体育Ⅰ」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレール館） 「保育所保育指針解説書」（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）</p>		
参考書・参考資料等		
担当者が指示する		
学生に対する評価		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して、関心・意欲・態度が現れている。 ・授業を通して、遊びの構造的発達やこどもの発育発達を理解している。 ・授業を通して、遊びの特徴を理解し授業に参加している。 ・運動能力の特徴を理解し、安全に配慮し楽しく効果的な指導法の実践を学んでいる。 ・学習に必要な用具を持参している。
課 題		
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	60%	調整力、遊具の安全性について理解しているかを基準とする。
特 記 事 項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと文学	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>「子どものころの文学体験は一生消えることなく、その人の人間性にかかわる」(西本鶏介)ものであると言われる。このように言われ生涯にわたる人間性を培う子どもの文学についての理解を深め、子どもにとり成長の糧となりうる一冊の選択肢を養うことを目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：児童文学について、重要事項を落とさずに自分の考えをまとめることができる。</p> <p>科 目 試 験：グリム童話、アンデルセン童話、「赤い鳥」について自分の考えをまとめることができる。児童文学、絵本について理解を深めることができる。</p>		
授業の概要		
<p>具体的な作品を題材として、作者が子どもに託したメッセージ、先人の機微などを子どもの生活経験と照らし合わせながら分析する。また、小学校の国語の教科書に載せられている作品も取り上げる。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童文学概論 2. 児童文学の形式 3. 世界の児童文学史 グリム童話、アンデルセン童話 4. 日本の児童文学史 「赤い鳥」 5. 世界の絵本の歴史 6. 日本の絵本の歴史 7. 絵本とは 絵本の種類 (赤ちゃん絵本、物語絵本、知識絵本、民話絵本、障がいを持つ人を理解する絵本、戦争と平和を考える絵本の特質と紹介) 8. 昔話 (伝承童話・民話・伝説・神話) 9. 小説 (少年少女小説・歴史小説・空想小説・科学小説) 10. 童話、少年少女詩、戯曲、ノン・フィクション 11. 子どもと絵本 (絵本の必要性和選び方) 12. 子どもと読書活動 読み聞かせの具体例、留意点 13. 子どもとお話 (お話の必要性和選び方) 14. 幼児教育と小学校・中学校教育の連続性 15. 子どもに与える1冊の絵本・物語を考える 		
テキスト		
<p>「こどもと文学」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>		
参考書・参考資料等		
<p>「てぶくろ」エウゲーニー・M・ラチョフ絵 / 内田莉莎子訳 (福音館書店) (ISBN : 9784834000504)</p>		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単 位 数	学 習 形 態
家庭支援論	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>家庭の意義とその機能について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。さらには、子育て家庭のニーズ把握および子育て家庭の支援体制について把握する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：1. 家庭の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関の連携について理解する。</p> <p>科 目 試 験：レポート学習した内容の総括として、保育者として家庭支援の領域に関する基本的な知識・技能・人間性について習得する。</p>		
授業の概要		
<p>「家庭」という視点から保育者の支援の在り方について明らかにしていく。その中で、家庭生活を取り巻く様々な社会的状況についても把握し、問題の所在やその解決法について展開していく。これらによって、社会的家庭に関する基本的な知識、家庭支援の専門性等について学んでいく。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭支援の意義と役割 2. 家庭の意義と機能 3. 家庭支援の機能 4. 保育者が行う家庭支援の原理 5. 家庭生活を取り巻く社会的状況① ・現代の家庭における人間関係 6. 家庭生活を取り巻く社会的状況② ・地域社会の変容と家庭支援 7. 家庭生活を取り巻く社会的状況③ ・男女共同参画社会とワークライフバランス 8. 子育て家庭の支援体制① ・子育て家庭の福祉を因るための社会資源 9. 子育て家庭の支援体制② ・子育て支援政策・次世代育成政策の推進 10. 子育て支援サービスの概要 11. 保育所入所児童の家庭への支援 12. 地域の子育て家庭への支援 13. 要保護児童及びその家庭に対する支援 14. 子育て支援における関係機関との連携 15. 子育て支援サービスの課題 		
テキスト		
<p>「家庭支援論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(フレール館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレール館)</p>		
参考書・参考資料等		
<p>「家庭支援論」(保育者養成シリーズ)</p> <p>林邦雄、谷田貝公昭監修 中野由美子編著 (一藝社) (ISBN : 9784863590618)</p>		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの保健Ⅰ	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>小児保健の意義を念頭に、こどもの成長発達の特徴を理解し、その過程でおこる心身の疾病を理解する。また、保育における安全管理について理解するとともに、関係機関との連携についても学ぶ。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：小児の健康の必要性や、排泄機能と脳との関係性が理解できる。</p> <p>科 目 試 験：健やかな成長発達を促すための、こどもの健康に対する基礎的な知識や、健康を阻害する要因を理解できる。</p>		
授業の概要		
<p>小児保健を統計学的視点や母子保健との関連性からも捉え、こどもの発達、成長の特徴を理解する。また、こどもの健康課題や日常保育の中でおこる事象に対して速やかに対応できるように学習する。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健・母子保健統計から、近年のこどもの実態の把握 2. こどもの健康と生活 3. 児童虐待の理解と防止 <ul style="list-style-type: none"> ・養育者の環境、家族支援 4. こどもの生理機能・運動機能・精神機能の発達と発育の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・精神発達の学習においては、情緒的発達にも着目 5. 身体の障がいのあるこども・家族支援 6. 精神の障がいのあるこども・家族支援 7. 心身の障がいを持っているこども・家族の地域における支援体制 8. 予防接種の意味と種類・効果 9. 予防接種の救済制度と支援 10. 保育環境の衛生管理 11. 事故防止と救急処置 12. 安全対策と危機管理 13. 家庭・専門機関・地域との連携の重要性 14. 保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領における小児の保健 15. まとめ 		
テキスト		
<p>「こどもの保健Ⅰ」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
こどもの保健Ⅱ	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>こどもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学ぶとともに、実践能力を高める。また、事故や感染症等の健康管理について理解し、予防対策の取り組みについても理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：運動機能の発達や、幼児期の事故への具体的な対応が理解できる。</p> <p>科目試験：日常的に遭遇する病気や突発的な病気、事故に対する適切な対応が理解できる。</p>		
授業の概要		
<p>こどもの疾病について具体的な対応や支援の在り方を学習する。また、こどもの病気を早期発見できる観察力を養うとともに、適切な対応について学習していく。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> こどもの生活習慣と病気との関係：食生活、歯の健康管理の必要性 日常よくみる症状について：嘔吐・腹痛・頭痛・便秘・下痢・不機嫌等 日常よく見る病気の対応について：感染症（食中毒含む） 体調不良のこどもの対応について：なんとなく元気がない・不機嫌等 アレルギーのあるこどもへの対応について：食物アレルギー・アトピー体質・喘息等 小児感染症の予防と対策 <ol style="list-style-type: none"> 基礎知識・法律についての理解 日々の手洗いの重要性、環境整備と消毒 個別的な配慮を必要とするこどもへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 児童虐待が疑われるこどもへの対応 アナフィラキシーの既往のあるこどもへの対応（補助薬剤の取り扱い等） 気になるこどもへの対応 事故防止・災害への備えと組織的な取り組み 救急処置・救急蘇生法の理解 感染症発生時の対応：施設における安全対策の机上シミュレーション等 施設における災害時の危機管理対策 病後児保育の対応について（薬の取り扱いについて） 事故防止と安全教育：家族と連携施設との協働 「校内演習」と振り返り 		
テキスト		
<p>「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの保健Ⅲ	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>こどもがかかりやすい病気について、具体的な対処法や予防について学ぶ。また、病後児保育の対応や保育中に体調不良になった場合に適切な対処ができるように理解を深めるとともに、緊急時の対応ができるように演習を通して学ぶ。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：こどもの健康管理について理解を深め、演習（実習）を通して対処の実践力を高める。</p>		
授業の概要		
<p>こどもの保育に対する危機管理意識を高め、日常的な病気の対応や事故・緊急時における対処方法を学び、保育の現場で対応できる力を養う。</p>		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体計測の演習と評価 2. 観察項目「バイタルサイン」の測定の仕方と評価 3. 日常の保育に必要な養護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) だっこ・おんぶ・食事（調乳）・口腔内の清潔 2) 排泄の援助とトレーニング（おむつの当て方等） 3) 身体の清潔保持（沐浴実習）衣服の着脱 4. 一般的な症状に対する看護 <ul style="list-style-type: none"> ・発熱・泣き方・咳・頭痛・腹痛・嘔吐・便秘・下痢 等 5. 病気の対応と予防：感染症（ウイルス・細菌性）（食中毒） <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの必要性和手洗いの実習 6. 応急処置・救急法、包帯・三角布を使って演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 具体的な症状の応急処置：意識障害・出血・外傷・熱傷・熱中症・鼻出血・異物・アレルギー体質のこどもに対する対応 2) 人形をつかった一次蘇生法の演習・救急車の呼び方 等 7. 保育施設での安全管理対策と地域との連携と協働 8. まとめ（振り返り） 		
テキスト		
「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	30%	意欲的に演習に参加しているか等、学ぶ態度・姿勢を基準とする。
課 題	20%	身近にある材料で、乳幼児の「災害時の養護」に使用できるものをまとめることができているかを基準とする。
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	50%	面接授業で習得した技術・知識が理解できている内容であることを基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
保 育 原 理	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育原理では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：保育の基本（意義や目的など）や保育の質を高める方法について理解し、自分の言葉で説明ができる。</p> <p>科 目 試 験：保育所の役割や目的について理解を深め、その歴史や現状を踏まえながら多角的な視野で保育を考え、自分の言葉で説明ができる。</p>		
授業の概要		
<p>保育原理では、子どもをめぐる環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関しての認識を深める。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育とは何か(1) ・保育の意義と目的 2. 保育とは何か(2) ① 子どもの最善の利益を考慮した保育 ② 保護者との協働 3. 保育とは何か(3) ① 保育の社会的意義 ② 保育所保育と家庭的保育 4. 保育所保育指針における保育の基本(1) ① 保育の目標と方法 ② 養護と教育の一体性 5. 保育所保育指針における保育の基本(2) ① 環境による保育 ② 発達過程に応じた保育 6. 保育所保育指針における保育の基本(3) <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの健康と安全と保育計画 ② 保護者に対する支援 ③ 倫理観に裏付けられた保育者の専門性 7. 保育の質を高めるための方法(1) ・望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う 8. 保育の質を高めるための方法(2) ・生活と遊びを通して総合的に行う保育 9. 保育の質を高めるための方法(3) ・保育における個と集団への配慮 10. 保育の思想と歴史的変遷(1) ・欧米の保育思想の展開と保育施設の発展 11. 保育の思想と歴史的変遷(2) ・わが国における保育の歴史的変遷 12. 保育の制度(1) ① 保育所について ② 幼稚園について 13. 保育の制度(2) ① 認定こども園について ② 家庭的保育事業について 14. 保育の現代と課題(1) ・日本の保育の現状と課題 15. 保育の現状と課題(2) ・諸外国の保育の現状と課題 		
テキスト		
<p>「保育原理」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
社会的養護	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 		
《学習成果》		
レポ ー ト：社会的養護の意義と歴史の変遷を理解し、現状と課題について説明できる。		
科 目 試 験：各種児童施設における社会的養護の展開について説明できる。		
授業の概要		
望ましい保育者となるために、社会的養護に関する基本的な知識、専門性、人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の理念と概念 2. 社会的養護の歴史の変遷 3. 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 4. 児童の権利擁護と社会的養護 5. 社会的養護の制度と法体系 6. 社会的養護の仕組みと実施体系 7. 家庭的養護と施設養護 8. 社会的養護の専門職 9. 施設養護の基本原理 10. 施設養護の実際－日常生活支援、治療的支援、自己表現、自立支援 11. 施設養護とソーシャルワーク 12. 施設等の運営管理 13. 倫理の確立 14. 被措置児童等の虐待防止 15. 社会的養護と地域福祉 		
テキスト		
「社会的養護」(配本テキスト)		
「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)		
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用いる)		
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する		

授業科目名	単位数	学習形態
こどもの食と栄養	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>ヒトが動物として、また人間らしく生きていくために、何をどのように食べるべきなのか、という基本を理解する。その上でそれを暮らしの中に、どのような具体的な形で子どもたちに伝えていくのか、ということをしっかり理解し考え身に付ける。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：こどもの発育発達を理解し、その意義実践について理解する。</p> <p>科目試験：1. 栄養に関する基本理念と栄養素の役割・働きを理解する。 2. 幼児期の心身の発達を理解し、心身が健全に育成されるための対応を身に付ける。 3. こどもを取り巻く現代社会環境を理解し、健全にこどもを育むための環境の整え方を理解する。</p> <p>スクーリング：1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 2. こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解するとともに、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。</p>		
授業の概要		
<p>1. レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。</p> <p>2. スクーリングを通して学習成果に対する学習の理解を深め、実践力をつける。</p> <p>3. 普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身につける。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業		
【通信授業】	【面接授業】	
<p>1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解</p> <p>2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解</p> <p>3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解</p> <p>4. こどもの食生活の現状と課題についての理解</p> <p>5. 食育実践のための基礎知識</p> <p>6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備</p> <p>7. 特別な配慮を要するこどもへの対応</p>	<p>1. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解</p> <p>2. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解</p> <p>3. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期</p> <p>4. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期</p> <p>5. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期</p> <p>6. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容</p> <p>7. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法</p> <p>8. 特別な配慮を要するこどもへの支援</p>	
テキスト		
<p>「こどもの食と栄養」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>		
参考書・参考資料等		
<p>「子どもの食と栄養演習」[第3版] 小川雄二編著 (建帛社) (ISBN : 9784767950518)</p> <p>「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」 堤ちはる、土井正子編著 (萌文書林) (ISBN : 9784893471543)</p> <p>「乳幼児の食育実践へのアプローチ」保育所における食育研究会編 (児童育成協会児童給食事業部)</p> <p>「日本食品成分表」</p>		

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(レポート評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

【面接授業】

領域	割合	評価基準
受講態度	30%	保育者を目指す者として、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。
課題	10%	事前学習課題の内容が適確であること。それを用いた演習により授業内容の理解を深められることを基準とする。
その他		
単位認定試験	60%	授業内容を理解し、自分の生活にあてはめ、しっかり考察ができ、今後に役立て発展していく内容であることを基準とする。
特記事項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う

授 業 科 目 名	単 位 数	学 習 形 態
障 害 児 保 育	2単位	レポート・科目試験・スクーリング

授業のテーマ及び学習成果

障がいの種類や障がい児の特性、障がい児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を身につけ、実践できる力をつける。

《学習成果》

レポ ー ト：障がいのある子どもについて理解し、援助の方法、環境構成等について理解する。

科 目 試 験：障がいのある子どもやその家族に対する援助方法を理解する。

スクーリング：保育全体の中で障がい児を捉え、家庭、職員、関係機関と連携して保育する方法について理解する。

授業の概要

近年、保育における障がい児へのニーズが高まっている。そこで本講義では、障がいの種類や障がい児の特性、障がい児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を教授する。

授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

【通信授業】

1. 「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷
2. 障がい児保育の基本
3. 肢体不自由児、視覚・聴覚障がい児等の理解と支援
4. 知的障がい児の理解と支援
5. 発達障がい児の理解と支援 (PDD、ADHD、LD)
6. 家族の障がい受容
7. 障がいのある子どもの家族のストレスおよび支援

【面接授業】

1. 障がいのある子どもの記録及び評価と計画作成
2. 個々の発達を促す生活や遊びの環境
3. 子ども同士のかかわりと育ち合い
4. 職員間の協働
5. 保護者や家族に対する理解と支援
6. 地域の専門機関や小学校との連携
7. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育における現状と課題
8. 障がいのある子どもの支援の場の広がりにつながり

テキスト

「障害児保育」(配本テキスト)

「保育所保育指針解説書」(フレール館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレール館)

参考書・参考資料等

「障害児保育」〔新版〕渡部信一、本郷一夫、無藤隆編著(北大路書房)(ISBN: 9784762828362)

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する(レポート評価はループリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	10%	保育者を志す者として自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。
課 題		
そ の 他	10%	グループディスカッションなどにおける参加姿勢を基準とする。
単 位 認 定 試 験	80%	授業で取り扱った内容について、基本的な理解ができているかどうか、また保育者という専門職業人としての視点から自身の経験を踏まえて、深く論じることができているかどうかを基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

*科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
地域ボランティア	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>地域コミュニティに参加し、「ボランティア」活動に関する基本的知識、考え方を身に付けるとともに、活動が持つ社会的役割を理解し、社会貢献について考える。地域、人とのつながり、かかわりを持つ中で、自分自身の人間的な成長の契機とする。地域社会にある課題・問題へ目を向けながら、“自分には何ができるか、できることはないか”を問い掛け、自分自身が主体的に地域へ参与することの意義を学んでいく。そして将来、地域社会を担っていく人材として求められる「個人の尊厳」や「社会連帯」の理念に関する認識を深めることによりさまざまな力の育成を目指す。</p>		
《学習成果》		
<p>スクーリング：1. ボランティアの本質、活動の意義を理解したうえで、社会、地域への貢献について考えを持ち、説明することができる。</p> <p>2. ボランティア活動の経験から、わき起こった思考、感情に目を向けながら、自分自身の変化について言葉にすることができる。</p> <p>3. 多様なボランティア活動の事例について知り、人や地域社会とのつながり、かかわりについて、自分自身の考えを述べることができる。</p> <p>4. 受講生とボランティア体験を共有する学び合いから自己省察し、人間的な成長の契機とすることができる。</p>		
授業の概要		
<p>学びの場は、目の前ばかりでなく、地域社会に広がっている。地域のボランティア活動を通して、得る学びはかけがえのないものである。</p> <p>「ボランティアとは」「ボランティア活動とは何か」といった本質的な部分から授業を進め、“人と人のつながり、かかわること”とは、何であるかについて改めて考えながら、今後の社会生活、職業生活における人間関係力などについて学びを深めていく。また、地域コミュニティの一員として、自分の生活する社会において起こる問題や課題に気付くことで、今後の地域社会とのつながり、かかわりについて考える。事後指導において多様なボランティア活動の事例や受講生のボランティア体験を共有し、その中にある思考、価値、態度などに触れながら自己省察する。</p>		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<p>・ボランティア活動（30時間以上）</p> <p>＜スクーリング＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動の意義および基本的性格・定義について 2. ボランティア活動の心得について 3. ボランティア活動の事例について 4. ボランティア活動記録の発表 5. ボランティア活動の成果の確認と課題の考察 		
テキスト		
特になし		
参考書・参考資料等		
適宜紹介する		

学生に対する評価		
領域	割合	評価基準
受講態度 課題	10%	保育者を目指す者として、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。
その他	50%	活動先の評価・活動記録の内容と、ボランティア活動の実体験のプレゼンテーションを行い、その発表の内容・プレゼンテーションの伝達性（言動・態度など）から評価する。
単位認定試験	40%	ボランティア活動実体験及び授業で取り扱った内容を通じて、ボランティアの意義及び目標が理解できているかを基準とする。
特記事項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	